

## 確かな学びを育む社会科学習 ～イメージ形成の観点からの授業づくり～

熊本県八代市立鏡中学校 教諭 沖田 亮治

### 1 主題設定の理由

#### (1) 子どもたちを取りまく地域・社会やその実態より

現代社会は、価値の多様化、情報化、国際化、高齢化など各方面において確実に大きな変容がおこっている。しかも、この変容はますます拡大すると予想される。加えて、環境問題をはじめ、さまざまな社会的課題も山積している。このような社会においては、「主体的に考え、判断し、行動できる力」を持つ人間が求められる。

また、このことを知識という側面から見ると、固定的な知識をただ蓄積し繰り返すのではなく、その時々必要に応じ、新たな知識を獲得していくことや自らの知識を組み替えたり、さらには新たな知識を創り出していくことが求められている。すなわち、再生的思考から創造的思考への積極的な転換が望まれている。

#### (2) 本県の取り組みの方向より

知識や技能を単に教え込む教育から「生きる力」を育成する教育への転換が図られて久しい。本県では、すべての生徒に「確かな意欲」を持たせ、資料を活用して適切に考察したり表現したりすることによって、主観的で個別的なイメージや理解が客観的で関連的なイメージや理解へと変容していくことを目指している。つまり、単に認識のみでなくイメージを伴うことが、「確かな知識」「確かな判断」の定着につながるのである。この確かな学びに迫るために、①教材開発 ②発問の工夫 ③表現活動の工夫 ④価値判断場面の設定 ⑤学習過程の工夫の5つの重点項目を設定して実践・検証を行っている。

#### (3) 熊本県学力調査より

平成19年度「熊本県学力調査」結果報告書では、今後の公民的分野の改善の視点として、日常の学習で、目的や内容に応じた資料を適切に収集・選択して事象の特徴や傾向を読み取る活動を重視する。また、さまざまな資料が示す事実をもとに社会事象の背景や原因を調べ、我が国の変化や課題等を多面的・多角的に考察し判断する力を育てる等の指摘がある。つまり、資料を活用して特徴や傾向を見出す力と根拠をもとに考察したり判断したりして考えをまとめる力を育成することを重視している。

以上の点を踏まえ、本研究では、研究主題を「確かな学びを育む社会科学習」とし、副題を「イメージ形成の観点からの授業づくり」として、公民的分野におけるイメージ形成を通して「社会認識・社会的資質」を身につけることができる社会科授業の創造を実践していくことにした。

### 2 研究の仮説

授業の中で次のような手立てをとれば、イメージが高まり、社会認識や社会的資質を身につけることができるだろう。

- (1) 生徒にとって身近で意外性のある教材を開発すれば、知的好奇心を引き出し、なぜだろうという考えを持って自ら課題解決をしようとする追究意欲を高めることができるのではないかと。

- (2) 地理的分野での学習と公民的分野の経済単元の学習を結びつけるために、スモールステップを踏みながら適切な資料を提示すれば、根拠をもとに考えたり判断したりすることができるのではないか。
- (3) 社会生活を営む上での様々な立場に立って考えさせれば、社会的事象へのイメージを膨らませることができ、実感を伴った知識を身につけることができるのではないかと。

### 3 研究の方法（「私たちの生活と経済」の単元において）

#### (1) 教材の開発

本県では、「追究するとは、社会事象の奥に潜んでいる真理や真実をどこまでも深く明らかにし続けることである。生徒は、追究に値する適切な学習課題に遭遇したときに、意欲的にかつ主体的に学ぶ。」としている。この点をふまえて、魅力ある教材の開発に努めることにした。

指導要領では、「身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させ・・・」や「身近で具体的な事例を取り上げ・・・」と《身近な》ものを扱うように述べられている。しかし、泉中学校の生徒や地域の実態から、教科書に載っているようなハンバーガショップなどは身近なものとは言い難い。そこで、生徒の持っている「安くすれば売れる」という概念に矛盾し、且つ、経済活動がさまざまな条件の中での選択を通じて行われているという問題意識を持たせるのに適し、さらに、地域の産業から経済を考えることができる、塩トマトを教材にすることにした。

#### (2) 分野間の関連を持たせるために

本県では、「生徒のイメージの高まりと認識の深まりは、相互作用を及ぼすものであり、主観的で個別的なイメージや理解が、学習によって、客観的で関連的なイメージや理解へと変容していくことで、生徒の認識が深まっていく。」としている。

また、生徒のイメージを高めながら認識を深めて、さらに判断力を身につけさせる学習過程を、

つかむ（課題把握）→予想する（予想・仮説）→確かめる（検証）→定着させる（客観化）→ふくらませる（概念化・創造）
--

ととらえている。

本研究では、2年生の3学期に地理学習の発展として、「(八代平野で)なぜトマトなのか」を次の流れで学習させた。①全国における熊本県のトマト生産が第一位であることを統計資料で確認する。②熊本県の冬トマト生産の約8割が八代平野で行われていることを知らせる。③「なぜ八代平野ではトマトの生産が盛んなのか」というテーマを追究するための仮説を一人ひとりに立てさせる。④自分の仮説を検証するための調査をする。⑤検証結果の報告（発表会）をする。このような流れで学習を組み立てることによって、自分なりの根拠を持ち、根拠をもとに価値判断を行う場面を設定した。

その後、生徒の追究活動の中で、「塩トマトって何？」という新たな疑問が出てきたので、「トマトと塩トマトの違い」について次の通り調べさせた。①塩トマトについて調査項目を設定する。②調査項目を追究する。③追究結果の報告（発表会）をする。

さらに、3年生になって、実際に食べてみたいという生徒の欲求から、農家の方のご厚意もあって塩トマトを食べさせることにした。①見て気づいたこと②食べて気づいたことを書かせた後、「いくらで買いますか？」と投げかけた。この時も、自分の根拠を明確にして価格を設定していた。

このような流れで、経済単元につなげることにした。

### (3) 多面的・多角的な思考場面の設定

多面的な思考とは、いろいろな側面から見た思考であり、多角的な思考とは、いろいろな立場から見た思考だと考える。

トマトを例にしてみると、多面的な思考とはトマトの味や価格・安全性など様々な面から考えること、多角的な思考とは消費者の立場・生産者の立場など様々な立場から考えることである。

市場経済において個々人は価格を考慮しつつ、何をどれだけ生産・消費するかを選択する。また価格には何をどれだけ生産・消費するかにかかわって、人的・物質的資源を効率よく配分する役割がある。これらのことから、本研究では、一般的なトマトの約2倍の価格であるにもかかわらず売れる塩トマトから、流通のしくみや市場価格、商品の選択、生産のしくみを考えることができる発問を導入段階で工夫することによって、確かな意欲を持たせるようにした。また、導入段階での自分達の予測を資料をもとに以下のように判断する場面を設定することによって、実感を伴った知識を身につけさせるようにした。

導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>①消費者が高い価格でも買うのはなぜか？</li> <li>②塩トマトと普通のトマトではどちらを選択するか？</li> <li>③福岡と八代での価格は？</li> <li>④地元に残らないのはなぜか？</li> <li>⑤生産者（松永さん）が塩トマトの生産をやめたいと考えているのはなぜか？</li> </ul>
消費者の立場から	<ul style="list-style-type: none"> <li>①初任給の概況を知り、所得の種類を学ぶ。</li> <li>②家計消費の国際比較の資料から、消費支出について学ぶ。</li> <li>③所得（収入）と支出のやりくりを一人ひとり考えさせて、塩トマトと普通のトマトではどちらを選択するかを判断する。</li> </ul>
生産者の立場から	<ul style="list-style-type: none"> <li>①松永さんが塩トマトをどこに出荷しているのかを予想する。</li> <li>②松永さんの出荷先を知る。</li> <li>③主に大都市（人口が多いところ）に出荷しているのはなぜかを考える。</li> <li>④資本主義経済の中で生産者（企業）の目的についてまとめる。</li> </ul>
流通の側面から	<ul style="list-style-type: none"> <li>①八代と福岡では松永さんの塩トマトの価格が変わらないことを知る。</li> <li>②なぜ変わらないのかを予想する。</li> <li>③教科書（東京書籍）の「野菜が消費者に届くまで」の図で、普通のトマトの流通を知る。</li> <li>④普通のトマトの流通とどこが違うのかを考える。</li> </ul>
価格の面から	<ul style="list-style-type: none"> <li>①普通のトマトの価格の決まり方について予想する。</li> <li>②トマトの需要と供給のグラフから、価格の上下について考える。</li> <li>③市場価格・市場経済についてまとめる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>①松永さんが塩トマトの生産をやめたいと考えている理由を考える。</li> <li>②松永さんの本音を塩トマトとミニトマトの収量・価格・収穫期間の違いから探る。</li> <li>③価格によって労働力や土地などの生産資源が調節されることをまとめる。</li> </ul>

## 4 検証授業の実践

- (1) 単元の計画（資料集参照）
- (2) 本時の学習（資料集参照）

## 5 研究の成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

#### ①仮説1より

生徒にとっては、塩トマトにスポットを当てて塩トマト・トマトで単元全体を構成することで、「初めてのことを知る楽しさ」「意外なことを知ったという驚きを伴う楽しさ」「論理を追究する楽しさ」を味わうことができたと思う。

単元を通して、一人ひとりがとても意欲的に取り組み、真剣に考え、経済についてのイメージを高めることができた。

塩トマト・トマトで単元全体の流れを考えることによって、生徒に身につけさせたい力を教師が分析することができた。

#### ②仮説2より

これまでの経済単元においては、いろいろなもの（ハンバーガーショップや農作物・電化製品・衣服など）を取り上げはするものの、生徒のイメージの高まりや認識の深まりは見られなかったように思う。

今回は、農業県である熊本を象徴する八代地域のトマトを地形や気候などから考察した地理の学習と公民的分野の経済単元を結び付けていきたいというビジョンを持って取り組んだので、スモールステップを踏みながら取り組むことができた。また、一つ一つの学習が経済単元の学習において、生徒のイメージ形成に役立てられた。

さらに、新しい新学習指導要領（24年度から全面実施）が求めている各分野の関連を意識した授業展開という面でも効果的だったと考える。

#### ③仮説3より

「塩トマトは価格が高いのになぜ売れるのか?」「松永さんが、塩トマトからミニトマトに移行されようとしているのはなぜか?」等を思考させ、価値判断場面を設定することで、消費者や生産に携わる人々の思いにまで踏み込んだ理解につなげることができた。

単元の指導計画も生産・流通・消費の側面から考えさせるために、教科書の配列を一つだけ変えて作ってみたが、効果的だったように思う。

### (2) 今後の課題

#### ①仮説1より

いわゆる「一級品」「ブランド」である塩トマトとトマトを対比することによって、一般的なものの流通経路や価格の決まり方などを理解させることができた。八代には他にもたくさんの農作物があり、中には国指定産地のものもある。これからも、地域の魅力ある教材開発につとめていきたい。

#### ②仮説2より

生徒の実態に応じていかに学習過程を組み立てるかはまだまだ研究を進めていく必要がある。資料を正しく読み取ることはもちろんだが、資料と資料を関連づけて考察するなどの技能・スキルをどこでどのように指導するかも工夫していきたい。

#### ③仮説3より

塩トマトは生産者の立場・消費者の立場に立って考えるのに、とても効果的であった。

今後は、多種多様になっている流通について、生徒が実感できるような資料や教材の開発に努めていきたい。